



楠の葉

佐賀大学同窓会報 第31号

発行日 2019年7月1日

発行 佐賀大学同窓会

佐賀市本庄町1 佐賀大学 菱の美会館内
TEL 0952-23-1253
FAX 0952-25-5700
E-mail dousoukai@sadai.jp
ホームページ http://sadai.jp/alumni/

編集代表者 徳安和博



「平成・令和」世代への参加呼びかけを

佐賀大学同窓会会長 川 副 操 (農学・S44年卒)

会員の皆様には、ますますご清栄の事とお慶び申し上げます。

日頃より同窓会活動にご理解・ご協力いただき、厚くお礼申し上げます。

さて、今年は4月末日をもって平成天皇が退位され、5月1日から元号が「令和」となり皇太子が新天皇に即位されました。実に202年ぶりの生前退位との事。平成という一つの時代が幕を閉じ、新しい時代の扉が開いたところです。

平成天皇は数年前から会見の場で、『憲法が定める「国民の象徴としての活動」が体力的に困難になった』との感想を述べられ、国民も平成天皇の国民目線での行動に対して感謝・ねぎらいの観点から賛同したものでした。

翻って私達の「佐賀大学同窓会」の現状を見てみると、ご承知の通り5つの学部同窓会により構成されていますが、例えば教育学部の「有朋会」は、古く師範学校時代の「明治」から脈々と受け継がれてきた組織であり、事務局の努力も大変なものでこれまで約15,000名を超える卒業生組織の運営を担ってまいりましたし、その他の学部同窓会においても、発足の歴史は異なりますが、卒業生相互の親睦・融和に多大な心血を注ぐ努力があったようです。これらの事務局を預かる昭和・平成世代が中心の役職員は、時々の時代背景もあり卒業生の価値観がそれぞれ異なる中で、いろいろ知恵を絞り同窓会組織のま

とめ上げが図られたと思いますし、結果、今日では17の地域・県外支部会更には11の県内地区会が組織され、総会・講演・シンポジウム・懇親会等のイベントが行われてきたところです。その成果に対しては私達後に続くものとして高く評価し、先輩方を「ねぎらい」たいと考えているところです。

しかしながら今日、各県・地域支部からの情報として新規参加者の勧誘が思うに任せず、一方では会員の高齢化が進み役員交代もなかなか進まないとの意見が多くなってきたようです。

こうした中、先日訪れたある県支部では、職場の先輩からの「声掛け」が効果をもたらしたようで、これを一つのヒントとして更にゼミ・クラブの仲間といった学生時代の繋がりを活用して「平成」世代へ参加を呼びかけていく事が、これから確実な組織の充実へ結び付いていくのでは?とのヒントを得たところです。

勿論、「昭和」を駆け抜けてきた先輩諸氏の経験・知識は今後も十分活用させて頂き、「平成・令和」とのミックスでの組織運営をお願いし、また、大学本部との連携による各県支部総会への参加で、同窓会が「より魅力ある組織」へ発展するよう模索していくのも必要と考える次第です。

会員皆様方のなお一層のご協力をよろしくお願い致します。

明治維新から150年 「肥前さが幕末維新博覧会」を訪ねて

佐世保支部（むつごろう会）会長 白井 寛（文理学部・S34年卒）

昨年（2018年）は明治維新から150年の記念すべき年、九州では、鹿児島、熊本、佐賀などの都市でそれぞれに記念式典、博覧会が開催された。佐賀市でも昨年（2018）3月17日から今年の1月14日まで約10ヶ月に亘り、明治維新150年を記念して「肥前さが幕末維新博覧会」が開催された。会場は佐賀駅から県庁前の佐賀城内の市村記念体育館。私は最初からこの「幕末維新記念館」を見たいと考えていたが、遅れに遅れやっと最終日の14日辿り着いた。10時に会場に到着して驚いたのは最終日というせい、入館まで3時間待ちという長蛇の列。係員の話では1日3000人位の来館者もあった由。昼食もあきらめて、立ちっ放しの苦行でやっと13時に入館できた。この博覧会に関心を持ったのは、幕末維新における佐賀藩の活躍の真実を、特に「薩・長・土・肥」と言われながら、最後には薩摩、長州に遅れをとったのは何故か。150年前の佐賀藩は時代の大きなうねりの中で、いち早く世界に眼向け、日本で初めての反射炉やアームストロング砲、実用蒸気船を製造し、日本の近代化の先駆けとして活躍した藩であった筈。この記念館では当時の日本を牽引した佐賀の「技」、それを成し遂げた「人」そしてそれらの礎となった「志」（志通天＝志は天に通ず）が見事に展示され、また広場にはアームストロング砲が並んでいて来館者達がカメラを向けていた。以下、感想、見聞を述べてみたい。

会場は4つの「場」に分かれていて、まず第1場は「幕末維新」体感シアター。第2場は「技」からくり劇場。第3場は「人」賢人ラウンドシアター。第4場は「志」ことのは結びであった。第1場の扉が開くと壁一面の大型スクリーンに登場したのは佐賀藩第10代藩主の鍋島直正（閑叟）など佐賀の七賢人である。

当時幕府は天領の長崎に入港するポルトガル船、オランダ船への対策として、長崎港の警備の軍役（長崎御番）を福岡藩と佐賀藩に命じた。閑叟が藩主になったのは17歳。最初は藩財政の立て直しの為に自ら率先して質素儉約に努め、経済振興では特に陶磁器（伊万里・有田）や佐賀綿などの特産品の製造・生産を奨励した。そしてその利益で“洋式化”を進めた。まず長崎港に東洋で最大の洋式要塞を作る為に大砲を鑄る反射炉、西洋銃、火薬の製造に取り掛かった。一方藩士には藩校の「弘道

館」などでスパルタ教育を施し、江藤新平（初代司法卿）、大隈重信（早稲田大学創設者）、副島種臣（外務卿）などの優秀な人材を育てた。現在佐賀城本丸北側には閑叟の銅像が生誕200年を記念して建っているが、これはみな県・市民などの募金、浄財によるもので、名君閑叟に対する佐賀県民の誇りが感じられる。

閑叟の跡を継いだ第11代藩主の直大公は、長じてイギリス留学やイタリア公使を経験し、帰国後は公爵となり明治天皇の側近として活躍した。また、江藤新平はいわば閑叟の「申し子」的存在、近代日本の教育学全般を西洋学準拠へ導いた歴史的決断や日本人の人権の基礎を築いた偉業は素晴らしい。また明治5年に初代司法卿として日本の司法権自主の糸口を開き法理主義と人権の基礎を築いたが、その前年には、新設された文部省の初代大臣として、近代日本国家教育体制の根本軌道を作った逸材である。江藤の基本方針は従来の「国あっての民」という国家主義的傾向とは正反対の「民あっての国」という民主主義の理念で、福沢諭吉の「天は人の上に人を作らず、人の下に人を作らず」と好一對をなす歴史的名言である。江藤はその後明治6年4月に参議に昇格、政界最高首脳の一人となった。この偉大な江藤新平の不運は明治6年、征韓論騒ぎから政界を除外され佐賀に戻り、「佐賀の乱」に巻き込まれて翌年4月に首謀者として死罪に処せられた事である。

九州西端の佐賀藩は、当時の鎖国日本でのいわば「西洋」という別天地。博覧会は無事、盛会裏に終わったが、佐賀市内には以前から「大隈重信記念館」「リアル弘道館」「佐賀城本丸歴史館」などがあり、明治維新の知られざる歴史が多く展示されている。今後とも機会を見て、近代日本の先駆けとなり、明治維新をリードした佐賀の偉人たちの足跡を見学、観賞したいものである。



支部だより

鹿児島県支部総会・懇親会

平成31年1月19日午後6時から、鹿児島市内のホテル「レクストン鹿児島」において、鹿児島県支部の総会及び懇親会が開催されました。本部から川副操佐賀大学同窓会会長、宮尾正隆有朋会会長、江口洋一楠葉同窓会会長、小池良美農学部同窓会会長、島公二武理工学部副会長、並びに山口智啓理工学部同窓会副会長のご参加をいただき、県内各地から駆けつけた支部会員14名の出席のもと、再会を喜び語り、楽しい集いとなりました。

総会は、まず会計担当の今村淳一氏より会計報告がなされ、支部長の挨拶に引き続いて、本部を代表して川副同窓会会長から支部会開催の祝辞と同窓会全体の活動状況について報告がありました。

懇親会は支部会員最年長の竹下威氏（文理・S29年卒）の音頭による乾杯、島同窓会副理事長の音頭

で「巻頭言」に引き続き「南に遠く」を高らかに熱唱の後、鹿児島の食を堪能しつつ、出席者それぞれが学生時代の思い出や、人生の喜怒哀楽を含めた自己紹介と近況の報告を行い、さらに酒盃を交わしながら歓談し、少人数を忘れるかのような賑やかな、有意義な懇親会となり、最後に小田原康弘氏（理工・H23年卒）の一本締めでお開きになりました。さらに恒例の二次会へと足が進みました。

支部長 上田 耕平（文理・S39年卒）



「ひのくに便り」 ～熊本支部総会～

令和元年5月18日、熊本市の「メルパルクホテルくまもと」において佐大同窓会熊本支部の総会を開催しました。

参加者は会員48名と佐賀大学及び同窓会本部から4名のご参加を頂きました。

総会に先立ち、高口義幸氏（経済・S53年卒）から「地方創生と人材定着～熊本COC+の取組～」というテーマで県内企業への人材定着、U・I・Jターンの動き等について事例発表をしてもらいました。

総会では芦村伸也会長（教育・S57年卒）が、「令和の新時代を契機にさらに本会活動を活性化していきたい」と挨拶しました。

同窓会本部の川副操会長からは、「支部活動が盛んな熊本にさらに頑張ってほしい」とお祝いとお励ましの言葉がありました。

佐賀大学の兒玉浩明理事・副学長からは、大学の近況報告と熊本支部活動の更なる飛躍についてお言葉を頂きました。

懇親会場の各テーブルには、嶋田薫氏（農学・H

2年卒）が栽培した「胡蝶蘭」が飾られており、「悠々知酔」の乾杯で始まりました。

参加者は各テーブルごとに演壇に上がり、それぞれの近況を紹介し、大いに盛り上がりました。

最後は、前田研己氏（理工・S49年卒）による応援団エールで、同窓会活動の発展を祈願し散会しました。

なお、各テーブルを飾った「胡蝶蘭」は、くじ運が良かった会員18人が持ち帰りました。

ご参加頂きました会員の皆様を始め、大学や同窓会本部の関係者の皆様方に、心から感謝を申し上げます。

事務局長 大串 和久（医学・S61年卒）



佐賀大学教職員支部会総会

平成31年3月14日(木)午後6時から、佐賀大学同窓会館「夢の実会館」で佐賀大学教職員支部会総会・定年及び転任退職者送別会・懇親会が、池上康之副支部長の司会のもと開催されました。

総会においては、佐藤武支部長のあいさつのあと、新支部長に横山正俊氏(医学部 産科婦人科)が推薦され、全員一致で決定しました。

次に転・退任される、瀧上道晴氏(理工学部事務長)、佐藤武氏(保健管理センター)、穂屋下茂氏(全学教育機構特任教授)の3人に花束贈呈がありました。光富 勝氏(農学部教授)は都合により欠席でした。その後、ご出席の3人の方々からご講話をいただきました。3人ともこれまでの実践や経験を自分の思いを踏まえ熱く語られました。

佐賀大学同窓会会長 川副操様から来賓のあいさつ

を賜り、懇親会が始まりました。佐賀大学で働く同窓生が集い、和気あいあいの中、時間があっという間に過ぎていきました。会の最後には、理工学部副会長 島 公二武氏のエールで佐賀大学学生歌「楠の葉の」を声高らかにみんなで歌い会を終えました。

佐賀大学教職員支部会の益々の発展を祈念します。



佐賀県内地区会



佐賀大学同窓会県内地区会役員会

5年前、佐賀大学同窓会には県外に十数の支部があるものの、県内には全学部の同窓生を包括する支部はなかった。そこで、数年前から県内を15ブロックに分け、地区会を設立する取り組みがなされ、現在は11地区会が設立されている。平成27年度には神埼地区会を皮切りに4地区会が発足され、翌28年度には9地区会総会が、29年度には7地区会総会が開催された。

4年目の平成30年度は10月末になっても神埼・伊万里地区会以外からは開催の連絡はなかった。

そこで、本部事務局では地区会に対し1. 課題や悩み、2. 有意義なものにするための取り組み、3. 本部への要望などのアンケートをお願いし、2月に地区会役員会を開催することとなった。

川副同窓会長の挨拶のあと、各学部同窓会の現状報告があり、また、各地区会からも現状や課題・悩みが報告された。その後、アンケート集計報告と協議がなされた。有朋会支部の支援を受けて発足した地区会では役員の負担となっているところが6地区あった。会員発表や講話など有意義な内容にしたい、案内状だけでは参加者が望めない、有朋会総会で案内を依頼する、独自の案内状を作成した、本部役員との意見交換の場がほしい、電話や口コミで勧誘しているなどの回答があり、地区会役員のご苦勞が感

じられた。発足より4年経過したが、神埼・伊万里が4回、7地区が2回、2地区が1回開催しており、2年に1回開催予定が3地区であった。このように1、2回しか開催されていない地区会が殆どで、まだ定着しているとは言えない。本部からの支援と働きかけが必要であり、まだまだ地区会役員会は年度当初に開催した方が良いと思う。

地区の世話人と本部役員が苦勞して築き上げてきた県内地区会、この火を消してはならない。隔年おきに開催する、有朋会支部会直後に開催する、他地区と統合するなど、地区会役員会で知恵を出し合い、苦勞を重ねれば、必ず道は開けると思う。

地区会運営にはご苦勞や悩みがある。それを本部と一緒に解決する場が地区会役員会であるように思う。

前支部強化部長 島 公二武(理工・S50年卒)



2019年度春期定例役員会

事業計画、予算を決定

2019年度春期定例役員会を平成31年4月18日(木)、佐賀大学「菱の実会館」で開催した。顧問の久間善郎氏にもご出席いただき、平成30年度事業報告・決算報告、2019年度事業計画案・予算案及び新役員を承認した。

理事長職2年の竹下敬教氏(有朋会)が退任し、島公二武氏(理工学部同窓会)が新理事長として指名された。

I. 平成30年度事業報告

1. 会報発行事業

佐賀大学同窓会報「楠の葉」29、30号発行。
佐賀大学同窓会案内(パンフレット)の作成。

2. 事業活動

- 1) 県外支部会、佐賀県内地区会等活動
10支部会、2職域支部会、2地区会の開催
- 2) 佐賀大学と佐賀大学同窓会の意見交換会
大学側から13名、同窓会側から11名参加
- 3) 佐賀大学校友会への支援
校友会費として2,812,500円支援(1人2,500円)
- 4) キャリアデザイン講座
キャリアデザインの10講座にOB・OG講師10名派遣
- 5) 佐賀大学同窓会会長賞
3人及び1団体に佐賀大学学位記授与式で授与
- 6) 第26回佐賀県青春寮歌祭
平成30年11月24日(土)、28校の参加 佐賀大学からの参加者数28人、佐賀大学混声合唱団応

援参加

○巻頭言・学生歌等の練習 振り付けとエールの練習

7) 開学祭支援事業

本庄・鍋島キャンパス大学祭支援

8) 懇話会(学習会)

代表役員会の前の時間に1回開催

9) 佐大同窓会Webページ

佐賀大学同窓会Webサイトの運用

10) 同窓会名簿の管理

名簿の入力及び修正

II. 2019年度事業計画

平成30年度事業の継続と充実を図る。

III. 平成30年度決算及び2019年度予算(概要)

【単位:千円】

科目	30年度決算	2019年度予算
収入の部		
前年度繰越金	1,650	3,373
会館維持積立一部繰入	2,332	2,100
人件費清算分	1,574	1,500
収納金	12,826	11,550
雑収入	56	70
合計	18,438	18,593
支出の部		
運営費	7,986	8,550
業務・活動費	7,078	7,950
予備費	0	2,093
合計	15,064	18,593

2019年度 佐賀大学同窓会役員名簿

役職	担当	氏名	卒業年学科	役職	担当	氏名	卒業年学科				
会長		川副 操	農学・44	理事	会報	徳安 和博	教育・H2	〃	支部強化	堤 公一	教育・H6
副会長		山田 直行	教育・47	〃	〃	松尾 和俊	経済・62	〃	〃	江口 達也	経済・60
〃		江口 洋一	経済・49	〃	〃	江村 正	医学・62	〃	〃	※眞鍋靖史	医学・H5
〃		西村 知久	医学・H4	〃	〃	田中 高行	理工・61	〃	〃	山口 智啓	理工・52
〃		穂屋下 茂	理工・49	〃	〃	郡山 益実	農学・H7	〃	〃	吉賀 豊司	農学・H2
〃		小池 良美	農学・56	〃	情報管理	中村 隆敏	教育・61	監事		末次 利隆	教育・51
理事長	庶務	島 公二武	理工・50	〃	〃	八谷 浩司	経済・61	〃		黒木 泰彦	経済・H11
副理事長	会報	水田 和彦	農学・51	〃	〃	古島 智恵	医学・H11	〃		吉岡めぐみ	医学・H12
〃	情報管理	荒木 昌史	経済・55	〃	〃	高崎 光治	理工・60	〃		椿 忠彦	理工・53
〃	学生支援	※佐藤 武	医学・59	〃	〃	田中 宗浩	農学・H4	〃		田中 俊之	農学・59
〃	支部強化	竹下 敬教	教育・51	〃	学生支援	岡 陽子	教育・54	理事	事務局長	平野 禎亮	教育・50
理事	庶務	長 安六	文理・44	〃	〃	大塚 浩司	経済・59	顧問		久間 善郎	文理・37
〃	〃	※矢ヶ部伸也	医学・H9	〃	〃	※市場正良	医学・61	〃		宮島 豊秀	教育・35
〃	〃	津留 保生	理工・H4	〃	〃	池上 康之	理工・61	〃		金丸 安隆	農学・43
〃	〃	瀬尾 裕一	農学・63	〃	〃	石橋 泰之	農学・60				

*庶務→庶務部 会報→会報発行部 情報管理→情報管理部 学生支援→学生支援部 支部強化→支部強化部
※医学部役員は7月の総会で変更有り

佐賀大学と 佐賀大学同窓会との

意見交換会

令和元年5月16日(木)18時から菱の実会館多目的室において、佐賀大学と佐賀大学同窓会との恒例の意見交換会が開催された。大学側からは学長、理事・副学長3名、事務局長1名、理事1名、監事1名、全学教育機構長副学長1名、学部長5名の計13名の参加があり、同窓会側からは会長、副会長5名、理事長1名、副理事長2名、理事1名、事務局長1名、計11名の参加があった。

同窓会長から、現在同窓会が17の支部を構成して活動していることと、高齢化により役員の交代についても若い卒業生の参加を視野に入れていること、同窓会と大学が車の両輪となって進みたいという旨の挨拶があった。続いて佐賀大学学長の挨拶があった。資料に基づき、IRを活用したマネジメントの強化、Society 5.0 (超スマート社会) に向けたIoE時代に求められるデータサイエンスリテラシーを考慮した教育の在り方、あらゆるシーンでのビッグデータの活用、OPTiM本店を佐賀大学に誘致し、企業による実装教育の推進を行っていること、機能性野菜開発による健康医学への貢献、農機具の自動化、物流の自動化、水産系の研究強化、シンクロトロン光を使ったナノバイオテクノロジーの研究、また、スマートホスピタルによる業務の効率化、ASEAN諸国の重要性を視野に入れたグローバル化、産学官連携強化の拠点としてのR&Dセンターを佐賀大学美術館横に設置することなどについて説明があった。

今回より意見交換では、事前に4つの質問事項及びお願い事項を全学同窓会より出し、大学側から回答を頂く形で意見交換が行われた。1つ目は同窓会としてのホームカミングデーへの関わり方の質問で、大学側からは参加者を増やしたいので、名誉教授の懇親会や佐大同窓会の同時開催、同窓会からは寮歌祭との同時開催などの提案があった。2つ目は名簿データの共通活用について同窓会から要望があったが、個人情報保護の観点と、大学のデータ管理システム上の都合で、できることとできないことがあるという回答であった。3つ目は同窓会からは会報をメーリングリストで宣伝して欲しいと依頼があったが、大学側からは紙媒体の会報を図書館などに置いている。学生はあまりメールを見ないのでメーリングリストでの広報も難しいだろうという回答であった。4つ目は佐賀大学基金の中に医学部同窓会への寄付を追加出来ないかという質問であったが、大学に入ったお金は公的なお金になるので医学部同窓会のリーダーシップが取れなくなる。現状のままでは医学部同窓会に用途を限定する使い方ができる寄付のしくみづくりは難しいので工夫が必要だろうという回答だった。

文責 徳安 和博 (教育・H2年卒)



同窓会NOW

有朋会（教育学部同窓会）

学生たちから感じる熱量

芸術地域デザイン学部 教務補佐員

前田 裕介（文化教育・H27年卒）



私は5年前に文化教育学部美術・工芸課程を卒業し、大学院の教育学研究科に進学、修了し現在は芸術地域デザイン学部で教務補佐員という仕事をしています。校舎の改築や、美術館の建設、芸術地域デザイン学部の誕生など様々な変化の中で学生時代を過ごしましたが、現在所属している芸術地域デザイン学部は、設備も学生への支援も、私が学生だった頃からさらに充実したものになっているなど感じています。私も現在仕事を通してその「充実」の一助になればと思っています。

私が現在就いている教務補佐員の仕事は、カリキュラムを組み授業をする先生方と、受講する学生の間立ち、道具の準備や手入れから、質問の受け答え、悩み相談まで、幅広く補佐を行う仕事です。

前学期は、芸術地域デザイン学部の1年生約120名が、週6時間の授業と課外に設けられた時間を使い、デザイン、フィールドワーク、工芸、マネジメント、絵画、彫刻、の6つの課題に取り組む「共通基礎」という授業が行われ、この授業の補佐が教務

補佐員の中心的な仕事となります。

大学に入学したての1年生が、初めて出会う課題の中で悩み、考えて質問してきたことに、教務補佐員という立場からどこまで、どのような言葉で答えるべきか、私の方が考え込んでしまうこともあります。しかし、約120名いる学生が協力し合いながら一斉に物を作ったり、街に出て調査を行ったり、成果物の発表を行ったりする様子に、迫力とも活力ともいえるような大きな熱量を感じる事が出来、教務補佐員という仕事を通してこれらの活動に関われてよかったと思っています。

学生たちが共通基礎で制作した作品は、毎年7月下旬から8月初旬にかけて佐賀大学美術館で行われる「成果発表展」で展示されます。本年度は7月31日から8月8日まで行われます。学生たちの大学での学びの第一歩が刻まれた展覧会です。ぜひこれを読んでいる皆様にもお越しいただき、学生たちの熱量を体感していただければと思います。

同窓会NOW

楠葉同窓会（文理・経済）

佐賀大学との長いつきあいに感謝を込めて

佐賀大学医学部医事課

中島 誠一郎（経済・H12年卒）



私が佐賀大学の一員になったのはもう20年以上前、地元から通えるからという単純な理由からの大学選びだったことを記憶しています。

そんな何気なく入学した佐賀大学でしたが、のびのびとした自由な校風が私にとっても合っていて、非常に充実した4年間の大学時代を過ごすことができました。

大学時代を顧みると、勉学には本気で励んだ記憶はありませんが、自由に過ごせる時間を使い、多種多様なアルバイトを経験したことが思い出されます。塾の講師やイベントホールのスタッフ、道路警備、変わりどころでは有明海に出て、海苔摘みのお手伝いをしたこともありました。数えてみると20種類以上のアルバイトを学生時代に経験していました。今思えばこの様々な職業体験をしたことが自分の社会性を伸ばすことができた大きな要因となったのかもしれない。楽しくもありましたが、同時に社会で生活していくことの大変さについても学ぶことができ、今となってはいい思い出となっています。

大学卒業後は、周りの友人らの影響もあって、公務員になることを決意しました。当時は公務員志望も多く、簡単に合格とはいきませんでしたが、運もあったのか当時の佐賀医科大学へ就職することができました。その後、時代の流れとともに大学統合が

全国規模で行われるようになり、佐賀医科大学も例外ではなく、まもなく新生佐賀大学へと名前が変わりました。このことは私にとって母校である旧佐賀大学側（本庄キャンパス）でも仕事を体験することができるようになることを意味しており、非常に嬉しい出来事でした。統合から15年以上経過しましたが、どちらのキャンパスもまだいい意味でそれぞれ違った伝統や空気感を残している印象があります。私自身もすでに両キャンパスでの仕事を体験し、異動があるたびに新たな気持ちで仕事に取り組める環境があることに感謝しています。

現在は鍋島キャンパスにおいて電子カルテシステムの構築をはじめ、病院の情報インフラ関連の整備や管理運営を行う業務に携わっています。情報特有の専門用語や理論など覚えることも多く簡単な仕事ではありませんが、周りのスタッフに支えられ、非常にやりがいを感じながら日々の業務をこなす毎日を送っています。

佐賀大学とのおつきあひも早いもので学生時代から数えると20年を過ぎました。今後も佐賀大学が発展できるように、母校のため、微力ながら力を尽くしていきたいと思っています。

同窓会NOW

佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会

専門看護師 (CNS : Certified Nurse Specialist) とは

佐賀大学大学院修士課程看護学専攻専門看護師コース 南里 穂 (医学部看護学科10期生・H18年卒)

同窓生の皆さま、専門看護師をご存知ですか？

専門看護師とは、患者・家族に起きている問題を総合的に捉えて判断する力と広い視野で、専門性を発揮しながら6つの役割「実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究」を果たし、施設全体や地域の看護の質の向上に努めます。看護師として5年以上の実践経験を持ち、看護系大学院を修了した後、認定審査に合格することで取得できる資格です。

私は医学部看護学科卒業後、佐賀大学医学部附属病院で看護師として働いていましたが、患者さんをきちんと理解したい、看護を深めたいと考え佐賀大学大学院修士課程看護学専攻専門看護師コースに進学しました。看護の本質を学ぶべく実習や研究活動に奮闘の日々です。

看護は、患者さんの疾患だけでなく生活や生きてきた歴史を理解し、その上で病気や障害があっても、その人の望む生活ができるよう支えます。質の高い看護との出会いは、その人の人生や生活にも影響を及ぼすくらい大きな力と責任を持っていると思います。

現在、医学部附属病院には、がん看護分野と慢性

疾患看護分野で4名の専門看護師が在籍され、複雑で困難な状況を抱える患者さんへのケアや看護師への教育など専門性を生かし幅広く活動されています。また、県唯一の大学病院の専門看護師として県の事業に参画したり、講演活動を行う等、住民全体の健康や県の看護の質の向上にも取り組まれています。

専門看護師の存在や看護の重要性がより広く認識され、活躍することで県の看護の質が向上し、少しでも多くの方が病気だからとあきらめず、その人の意思が大切にされ、自分の望む生活を送れる、私も少しでもその一助になれるよう頑張りたいと思います。



同窓会NOW

菱実会 (理工学部同窓会)

世界で活躍する同窓生

佐賀大学理工学部同窓会 会報担当 田中 高行 (理工・S61年卒)

今回は世界で活躍する同窓生としてマロロ アルファロ (Marolo Alfaro) さんをご紹介します。

マロロさんは、現在カナダ・マニトバ大学の土木工学科の教授で、地盤工学を専門とするエンジニアでもあります。マロロさんはフィリピンのミンダナオ大学で土木工学の学士号、タイのアジア工科大学で地盤工学の修士号を、そして佐賀大学で土木工学の博士号を取得しました。その後、カルガリー大学およびカナダ王立軍事大学からポストドクトラルフェローシップを受けました。マロロさんの研究分野は、土木工学応用のためのジオシンセティックス、基礎改良技術、擁壁構造、軟弱地盤上の高速道路の盛り土、自然斜面および人工斜面の安定化、気候変動の影響を受ける土木インフラストラクチャー、および凍結地盤工学などです。マロロさんは、専門誌

および国際学会で広く研究成果を発表しており、その研究成果で賞を受賞しています。さらに共同執筆で2冊の本を出版し、間もなく出版予定の教科書を執筆しています。



マロロ アルファロさん

現在、マロロさんは国際ジオシンセティックス協会北米支部 (カナダ、メキシコ、アメリカ) の副会長、カナダ地盤工学協会の理事会メンバー、国際土壌力学・地盤工学学会の地盤改良委員会のカナダ代表、およびマニトバ大学土木工学科の副学科長を務めています。佐賀大学の都市工学分野の先生方と交流があり、昨年は佐賀大学の博士後期課程の学生がマロロさんの研究室で1年間研究活動を行っています。

同窓会NOW

農学部同窓会

佐賀大学らしい農学部を目指して

佐賀に来て、8年が経ちました。2011年に農学部生物環境科学科に入学し、大学院まで進みましたが、大学院1年時に中退し、2016年から農学部の技術職員として現在まで働いております。学生時代には土壌中の水分や塩分の移動を主な研究テーマとしており、現在もその経験を活かして環境・情報系の技術職員として畑地、水田、温室、クリーク、干拓農地、熊本地震の被災地など、様々なフィールドで環境計測の補助を担当しております。

近年、IoTやAI、ロボットなど技術の進化が目覚ましいです。農学部においても、技術の進化に伴って、未開拓の分野の研究がどんどん進んでいます。今はAIに関する技術を学んでいますが、技術の進化に追いつくのは正直、大変です。ですが、民間企業にはできない大学にしかできないような新しい研究にチャレンジできることにはやりがいを感じております。また、農学部には他学部に比べても優秀な先

農学部 技術員 平嶋 雄太 (農学・H27年卒)

生方がたくさんおられます。これから、佐賀大学の農学部といえばこれ!と言われるような、研究がたくさん生まれるでしょう。そのときにそれらの研究を支えられるよう、今のうちから準備をしておこうと思います。



◆ 佐賀大学の風景 ◆



教養教育大講義室前の「ガリレオ・ガリレイ像」



理工学部1号館(南棟)横の桜並木

平成30年度佐賀大学同窓会長賞表彰受賞者



平成30年度佐賀大学学位記授与式（平成31年3月26日）において下記の4名（うち1名は団体代表者）に、佐賀大学同窓会 川副 操会長から表彰状と副賞が授与された。
 なお、賞状には、佐賀で400年の歴史を持つ『肥前名尾和紙』を使用した。



佐賀大学同窓会長賞表彰規程（抜粋）

（平成27年12月10日制定）

- 第2条 佐賀大学の学生及び学生団体（同窓会会費を納入した者）を対象に、社会活動、課外活動、学術研究活動において、地域貢献が顕著であると認められた場合に授与する
- 第5条 同窓会長賞の授与は、原則として毎年各学部1名又は1団体とし、表彰状及び副賞を学位記授与式において授与する

学部	氏名（団体名・代表者氏名）	表彰理由
文化教育学部	個人 早瀬 麻乃 <small>はやせ まな</small>	杵島郡江北町の神社「天子社」に代々伝わる町の行事を描いた絵馬を、現状模写と復元模写を組み合わせながら再現制作し、神社に奉納した。奉納されて絵馬は町の歴史を感じる地域資源として町の方々に愛されるものになると思われる。
経済学部	団体 岩本ゼミ 代表 渋谷 佳那 <small>いわた ゼミ しよや かな</small>	ゼミの共同研究活動として外部機関と連携して、消費者保護のための啓発資料の作成や地域フォーラム活動での報告・発表を行うなど、積極的に地域の安心安全に貢献した。
理工学部	個人 もりやま ゆたか 森山 裕鷹 <small>もりやま ゆたか もりやま ゆたか</small>	佐賀大学発ベンチャー企業として株式会社SA-GAを起業し、地元企業と連携して開発した「人工知能による行方不明になった認知症者の探索システム」は、介護にかかわる人々の負担を大きく軽減できることが期待される。
農学部	個人 ばば しゅういちろう 馬場 高一郎 <small>ばば しゅういちろう ばば しゅういちろう</small>	佐賀大学オリジナル清酒「悠々知酔」製造に積極的にに関わり、蔵元との交渉、製造計画、酒質決定等の全てに活躍した。更に従来「悠々知酔」酵母とは異なる新しい清酒酵母の分離・育種を実践するなど、学術研究活動においても地域に大きく貢献した。

※ 今年度、医学部から推薦者なし

受賞者の喜びの声

農学研究科生物資源科学専攻 生命化学講座応用微生物学研究室 **馬場 高一郎**

この度は佐賀大学同窓会長賞という大変名誉ある賞を頂き、誠にありがとうございます。私は清酒酵



母の育種に関する研究に取り組んできました。また、佐賀大学オリジナル清酒『悠々知酔』の製造にも携わり、2年間学生リーダーを務めました。悠々知酔の製造には当研究室の加藤名誉教授が分離されたオリジナル清酒酵母を使用しています。私はこの酵母の良い特徴を保ちつつ、より醗の管理がしやすい酵母に改良する研究を行いました。平成29年度の製造には改良した清酒酵母を使用することが実現し、大きな達成感を感じました。

4月からは博士課程に進学し、引き続き当研究室で研究に取り組んでいます。これまでの経験を糧に今後も研究に励んでいきます。



理事長就任挨拶

多くの先輩の教えを受けて…

佐賀大学同窓会理事長 島 公二武 (理工・S50年卒)

同窓会の役員になって丸4年が経過した。皮切りは神埼地区会の設立の会議である。その後ろ盾・牽引役をされたのが前同窓会会長の金丸先生である。そこで巻頭言なるものをはじめて聞いた。雄々しく格好良く、自分もやってみたいと思った。その後、穂屋下先生から理工学部同窓会役員会に勧誘され、支部強化委員を務めた。理工学部は各地区会役員のメンバーが未定だったので、その選出に奮闘した。11月に東海支部総会にも出席させていただいた。支部会長の「少数ながらもこの火を絶やさないようにしたい、そうすればいつか立派な会が開ける。」との挨拶に同感した。

2年目には理工学部副会長に推挙され、支部強化部長になった。このころ、楠葉同窓会刊行本「歌は流れる」に出合った。そこに巻頭言の由来が記してあった。佐大の前身旧制佐高の初代校長生駒萬治が昭和3年に不知火寮の寮訓として垂れたものだった。

そこには全国制覇を何連覇も成し遂げた佐高水泳部の活躍と二丈町の「吉井浜思い出の歌」の誕生の様子などが記されていた。そして、春から金丸会長の音頭で練習してきた巻頭言と不知火寮寮歌「南に遠く」を11月の佐賀青春寮歌祭で披露した。翌年度には早稲田の元応援団長江口県議に指導を仰ぎ、「楠の葉の」に応援団風に振りを付けた練習を行った。この二つは支部や地区会総会でを行い、佐大同窓会の伝統芸能として継承していきたい。

支部強化部長を3年間務めさせて頂き、県外支部総会や県内地区総会にも参加させて頂き、沢山のことを教えて頂いた。20数年前のことだが、経済卒で「楠田塾」(楠田元学長に因んで名付けられた)の小柳義弘会長に誘われ、同窓会のことを学ばさせて頂いた。

このように多くの先輩の教えを基に、また、ご指導・ご協力を得ながら皆様と共に佐賀大学と同窓会の発展に寄与できればと思う。

ホームページの閲覧を

佐賀大学同窓会ホームページを開きますと、トップページの次の言葉が目に入ります。中を開いていただきますと「佐賀大学同窓会」「有朋会」「楠葉同窓会」「佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会」「理工学部同窓会」「農学部同窓会」の様々な活動の様子が記されています。是非ご覧になってください。

たて糸 (先輩・後輩) と よこ糸 (同期生) で 織りなす佐大の人間模様

同窓会の動き (H31.1~R1.12)

- | | |
|--|--------------------------------------|
| 1. 1 佐賀大学同窓会会報「楠の葉」第30号発行
(会報の郵送は年1回のみ。第30号会報誌は同窓会ホームページでの閲覧) | 6. 20 佐賀大学同窓会「第2回代表役員会」/菱の実会館 |
| 2. 2 佐賀大学同窓会「県内地区会世話人会」/菱の実会館 | 7. 1 佐賀大学同窓会会報「楠の葉」第31号発行(会報誌は会員へ郵送) |
| 14 佐賀大学同窓会「第5回代表役員会」/菱の実会館 | (今後の予定) |
| 3. 26 佐賀大学学位記授与式「佐賀大学同窓会長賞」の授与
/佐賀市文化会館 | 10. 10 佐賀大学同窓会「第3回代表役員会」/菱の実会館 |
| 4. 3 平成31年度佐賀大学入学式/佐賀市文化会館 | 17 佐賀大学同窓会「秋期定例役員会」/菱の実会館 |
| 11 佐賀大学同窓会「第1回代表役員会」/菱の実会館 | 11. 16 佐賀大学ホームカミングデー/佐賀大学本庄キャンパス |
| 18 佐賀大学同窓会「春期定例役員会」/菱の実会館 | 23 第27回佐賀県青春寮歌祭/エスプラッツホール |
| 5. 16 佐賀大学と佐賀大学同窓会との意見交換会
/菱の実会館 | 12. 12 佐賀大学同窓会「第4回代表役員会」/菱の実会館 |

恩 師 情 報 ……この一年

定年退職（平成31年3月31日）

畑山 敏夫 経済学部	藤本 一眞 医学部 （医学科内科学講座）	山中 利夫 全学教育機構
光富 勝 農学部	古川 末喜 全学教育機構	松尾 清美 医学部 （地域医療科学教育研究センター）
染谷 孝 農学部		

訃 報 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

中 村 政 俊 佐賀大学名誉教授（理工学部）	平成29年7月18日
中 尾 弘 之 佐賀大学名誉教授（佐賀医科大学 副学長）	平成29年9月
FELLNER TERRENCE MARK（フェルナーテレンスマーク） 佐賀大学准教授（全学教育機構）	平成30年4月1日
和佐野 喜久生 佐賀大学名誉教授（農学部）	平成30年4月8日
野 中 福 次 佐賀大学名誉教授（農学部）	平成30年6月5日
諸 泉 俊 介 佐賀大学名誉教授（全学教育機構）	平成30年6月21日
遠 藤 隆 佐賀大学教授（理工学部）	平成30年7月9日
栗 林 佳 代 佐賀大学准教授（経済学部）	平成30年9月15日
山 中 猛 士 佐賀大学名誉教授（文化教育学部）	平成30年9月18日
田 中 廣 海 佐賀大学名誉教授（教育学部）	平成30年10月
長 野 暹 佐賀大学名誉教授（経済学部）	平成30年11月3日
田 中 宏 平 佐賀大学名誉教授（農学部）	平成31年3月20日

佐賀大学ホームカミングデーの開催

【期日】 令和元年11月16日(土)午後～ 【場所】 佐賀大学本庄キャンパス

【目的】 佐賀大学の卒業生に母校を訪問してもらい、母校の現状を知り、恩師、学友との再会と交流を深め、今後の母校への御理解と御支援をいただければ幸いです。

【対象】 卒業年等にかかわらず、すべての同窓生と本学の名誉教授

【内容】 大学の近況報告、講演、懇親会等
(懇親会に御参加の場合、参加費が2,000円必要です。)

※詳しくは、佐賀大学校友会のホームページ
(URL <https://koyukai.admin.saga-u.ac.jp/>) の
「お知らせ」を御覧ください。

【申し込み・連絡先】

校友会事務局
Email: koyukai@mail.admin.saga-u.ac.jp
電 話 : 0952-28-8154

「第27回佐賀県青春寮歌祭」参加のご案内

- ・日 時 令和元年11月23日（土・祝） 13時00分から17時30分（入場無料）
- ・会 場 佐賀市交流センター「エスプラッツホール3F」佐賀市白山2-7-1
佐賀駅より1200m TEL 0952-40-0560

例年、佐賀大学も含め約30校くらいの参加があります。奮ってご参加ください。同窓会事務局までご連絡をください。

会費納入のお願い

佐賀大学同窓会は、同窓会会報「楠の葉」の発行、学生の就職支援、佐賀大学同窓会長賞の授与、キャリアデザイン講座への講師派遣、支部会・地区会活動への支援、佐賀大学大学祭への支援、佐賀大学校友会への支援など多くの事業を行っています。それらの活動は、皆様方が納めていただく会費によって運営されています。会費納入を是非よろしくお願ひします。会費を納めていない人にお声かけをお願いします。

ご意見
メール
等募集

会報についてのご意見をお寄せ
いただく場合は、郵送のほか電
話またはE-mailでも受け付け
ております。

名前・住所変更等
ご連絡の
お願ひ

名前・住所等が変更になられた場合は、必ず同窓会
事務局へご連絡ください。
Tel : 0952-23-1253 Fax : 0952-25-5700
E-mail : dousoukai@sadai.jp